

県と公立大学法人会津大学による懇談会の概要

日 時：平成20年1月21日（月）午前1時～午後2時

場 所：県庁本庁舎2階応接室

出席者：県 側：佐藤雄平知事、穴沢総務部長

法人側：角山茂章理事長、ニコライ・ミレンコフ副理事長、黒田研一理事、
斎藤隆理事、牧田和久理事、太田光一学生部長、安江地域活性化センター長

- 1 知事あいさつ
- 2 理事長あいさつ
- 3 出席者紹介

4 懇談会開催主旨説明

この懇談会は、県政と大学運営の連携を確保し、県民の期待にこたえ得る魅力ある大学づくりを進めるため、大学の運営主体である法人と法人の設立団体である県が大学運営の重要事項について意見を交換するため、昨年度に引き続き、開催する。

5 公立大学法人の運営状況等について

- ・ 今年度の取り組み等について、公立大学法人会津大学角山理事長及び牧田理事から説明を受けた。

意見交換

- （県）短期大学部は、空家等地域情報データベース構築事業などについて、現時点で南会津地方振興局と連携しているのか。また、山形市立商業高等学校と連携しているとのことであるが、福島商業や平商業などとの連携にも取り組んでほしい。必要であれば、教育委員会に対して知事部局から働きかけてほしい。
- （法人）奥会津地域ということで会津地方振興局と連携して取り組んでいる。また、県内の高校向けには公開講座の実施や入学試験の推薦枠を設けて働きかけている。
- （法人）ヘルス・ツーリズム連携事業では今年度モニターツアーも実施して好評だった。また、短大ではパンフレットを作成して夏休みに県内の各高校を教員が積極的に訪問してPRしている。
- （法人）今年度のパソコン甲子園で県立清陵情報高校が受賞したが、この高校にも是非アプローチしていきたい。
- （県）地域定住事業を進める上で、高齢者にアプローチできないか。時間がある高齢者はおり、子どもの子守も喜んで引き受けてくれるのではないか。いずれにしても地方振興局との連携は重要である。
- （法人）空家の維持すら難しいのが実情である。受け皿が必要である。
- （県）福島に工場がきてもらっても本社機能がないために、税収の効果でいうと7対3とか6対4とかで少ない。各大学で高等教育協議会をつくっていると思うが、研究支援について話し合えないか。医大には材料はたくさんあると思う。
また、会津大での留年・退学者に対する支援に関連して、最近は家庭での抑止力が少なくなってきたことが様々な事件を生んでいる背景ではないかなと思っている。
昔はよくあった食事付きの学生寮などでの共同生活も良かったのかなと思う。

- (法人) 会津大では24時間パソコンが使える環境にあるので、学生も帰りたがらず夜遅くまで平気である。また男子学生が多く自宅生が少ないこともあり、朝食を抜く学生も多く、食堂とも連携してまずは朝食を取らせるようにしていきたい。
- (法人) アメリカの大学の例でいうと国が広いので学生は寮生活が普通であるが、会津大にも寮が必要である。民間と共同出資などすれば民業圧迫にはならないし、県にもサポート願いたい。
- センター試験で理科しか使っていないので会津大の偏差値は低くなってしまい、理系離れで競争倍率は下がってきているが、教員の質や設備は日本でも有数と考えているので、もっと高校にアピールしていきたいと考えている。
- (法人) 偏差値のこともあって中通りからは会津大にあまりきてくれない。
- (県) 学生は就職の状況がいいか悪いかで大学を決めるのではないが、ただ、全国の大学生の大半は首都圏、大阪圏、中京圏に就職してしまうという実態がある。
- (法人) 会津大でも就職率は100%であるが、都会にほとんど就職してしまう状況である。その気持ちは分からないではない。
- (県) 会津大はスペシャリストを育てることが使命かと思うが、コンピュータのスキルだけでは抜けていけばいいとするのか、あるいは社会全般についての知識も習得させようとしているのか。
- また、会津大をいつ訪れてもキャンパスの中に人がおらず、学生が勉強ばかりしていて学生生活を楽しんでいるのかなと思ってしまう。
- (法人) やはりユビキタス社会においては社会全般について知っていることが必要と考えて教育している。また、会津大では、先生や学生の住居と大学が近いところにあり、大学に通いやすいことから、先生と学生の距離が近く密度の濃い関係が築ける。学生達はスキーなども楽しんでいるようである。
- (法人) 会津大の学生はコンピュータが本当に好きで、いつも触っている。受験生にはコンピュータが嫌いな人は入学すると後でつらいよとっている。学生は土日はサッカーなどもして学生生活を楽しんでいるようである。
- (県) 留年21%、退学6%というのは他大学と比較してどうか。
- (法人) 他大学も同程度の状況かと思われる。ただ、会津大は1学年240名なので、誰かが休むと目立って誰だかすぐ分かってしまう。

6 お礼のあいさつ(佐藤知事)

技術的なことはもちろん、地域のニーズにこたえる会津大の役割は非常に重要と考えている。県としても頑張っていきたいので、今後とも一層の御研鑽をお願いしたい。